



平成26年度市勢功労者

民生功労

Chiba Hiroki

千葉弘記さん

78歳、一関市萩荘

公衆衛生と安全安心なまちづくりに尽力

昭和62年から市公衆衛生組合連合会会長、平成12年から県公衆衛生組合連合会会長、今年4月から日本環境保健活動団体連合会会長を務め、全国における公衆衛生意識の向上に尽力しています。さらに、18年から市防犯協会連絡協議会会長として安全安心なまちづくりを推進しています。

「誰かがやらなければと思ひ、活動してきました」と長年にわたり、公衆衛生や防犯の分野で指導的な立場を務めた千葉さん。「地道な活動が安全で住みやすい地域を作る」という信念を持ち、精力的に活動に取り組んでいます。「役職を務められたのは、役職員と妻のおかげ」と感謝していました。



平成26年度市勢功労者

産業功労

Koiwa Tomoo

小岩丈郎さん

76歳、一関市青葉

技能者の育成、雇用対策の推進に貢献

平成16年から今年まで一関職業訓練協会会長と一関高等職業訓練校校長を務め、企業の労働者や求職者の職業能力の向上と雇用対策の推進に貢献しました。15年に新たな職業訓練の拠点として移転新築した市職業訓練センターでは、情報化や高齢化など社会の変化に対応した各種訓練にも積極的に取り組み、同センターの円滑な運営にも努めました。

小岩さんは「職業訓練は、職人を一人前にするためにとても大切なことです」と訓練の必要性を説き、生徒には「知識と経験が大切です。誰にでも好かれる人間性豊かな人になってほしい」と願っていました。



平成26年度市勢功労者

教育文化功労

Saiki Ken

西城 健さん

78歳、一関市山目

学校保健の充実、地域医療の確保に尽力

昭和45年から現在まで44年余にわたり、市立小中学校の学校医を務め、児童生徒の生活習慣病予防などに力を注ぎました。健康の保持・増進と保健衛生意識の向上に努めるなど学校保健の充実に尽力しました。

東京大学医学部附属病院神経内科を経て、43年から西城病院院長として地域医療の充実に努めたほか、休日当番医制運営事業の当番医として地域救急医療の確保にも寄与しています。さらに、介護老人保健施設さいきなどの設置と運営にもあたり、高齢者介護の充実に貢献しています。

西城さんは、「地域の人たちの人情に助けられ、先輩や後輩に励まされ、医師を続けてきた。受賞は、皆さんのおかげです」と感謝しています。

【巻頭スペシャル】 平成26年度 一関市 市勢功労者表彰

市勢功労者表彰は、公共の福祉と市勢の進展に尽くし、教育文化、産業振興、民生などの分野で功績が顕著な市民を表彰します。今年、市勢の発展に尽力した7人が表彰を受けます。



平成26年度市勢功労者

民生功労

Nitnai Kazuo

似内一雄さん

75歳、一関市関が丘

高齢者の就業機会の確保に尽力

平成16年に市シルバー人材センター副理事長に就任。17年から今年まで理事長を務め、高齢者の就業機会の確保や生きがいの充実などに貢献しました。

17年9月の新一関市発足後、シルバー人材センターの組織基盤をさらに強化するため、それまであった一関、大東、千厩、東山の各シルバー人材センターの統合に尽力。似内さんは、その中心的な役割を果たし、18年に統合が実現しました。

「センターの活動では、就業する会員の安全に特に気を配りました」と振り返り、「支えてくれた役職員のおかげです。本当に感謝しています」と話していました。



平成26年度市勢功労者

民生功労

Osawa Koki

大澤弘毅さん

78歳、一関市赤荻

地域福祉事業の充実と発展に貢献

平成19年から今年まで市社会福祉協議会会長として、地域福祉の向上と地域福祉活動の充実に貢献しました。

特にも、18年に新一関市の発足を受けて社会福祉協議会7団体が合併し、新たに発足した市社会福祉協議会では、新市の地域福祉推進体制の基盤強化などに努めました。さらに藤沢町社会福祉協議会との合併に精力的に取り組む、24年の合併実現に中心的な役割を果たしました。

大澤さんは「市民のみなさんと役職員の協力で、本当に感謝しています」と話し、「これからは、高齢者の充実した生き方をサポートするような活動を目指して行ってほしい」と願っていました。



平成26年度市勢功労者

産業功労

Sato Tetsuji

佐藤鐵治さん

83歳、一関市東山町田河津

地域に根差した産業の振興に貢献

東山町田河津地区周辺で産出される紫雲石から硯を造り出す製硯師として、60年余の長きにわたり地域に根差した産業の振興に尽力。地域内でただ一人の製硯師として、現在も日夜作品づくりに向き合います。

昭和57年に特産品の製造技術の振興と販売促進を目的に「東山町特産品意匠会」が誕生し、設立当時から県内外での伝統工芸の作品展や物産展への出展などに取り組んできました。平成18年から20年まで会長を務め、地域の特産品の普及拡大に貢献しました。

「旧田河津小の校歌に『紫雲の石の輝き』の一文がある。地域に伝わる宝を絶やすわけにはいきませぬ」と話し、伝統工芸の保存に情熱を注いでいます。



平成26年度市勢功労者

産業功労

Sahara Tokuji

佐原得司さん

84歳、一関市中央町

児童の健全育成と産業の振興に尽力

企業経営の傍ら、平成17年から一関市少年少女発明クラブ会長を、16年から睦美会会長を務め、児童の健全育成、地域の伝統工芸の伝承とものづくり産業の振興に貢献しています。

昭和31年から市内で数少ない研究開発型企業の経営者として、独自の技術開発によるものづくりに取り組み、その技術力は国の「元気なモノづくり中小企業300社」に選ばれるなど高い評価を受けています。また、若者の雇用の確保にも尽力しています。佐原さんは、「創造性豊かな少年少女の夢を育てようと活動してきました」と発明クラブの活動を振り返り、「大勢の皆さんと出逢い、応援があつて今日があります」と感謝しています。